

有水晶体眼内レンズ手術 動画付

神谷 和孝, 清水 公也 編

有水晶体眼内レンズは、眼科医のみでなく一般の方にも認知されるようになり、近年、その手術件数は増え続けている。本書は『有水晶体眼内レンズ手術』と題されているが、実際には、数あるレンズのなかで最も普及し、国内承認を得ている Implantable collamer lens : ICL (アイ・シー・エル) 挿入に関する内容である。

さて、この ICL は、編集の労をとられた清水公也先生の地道な臨床例の積み重ねに加え、一般眼科医が思いつかない独自のアイデアによって、今日の普及に至ったと思う。白内障手術時の無水晶体眼に用いる眼内レンズは、前房型、虹彩把持型、後房型と複数のデザインが登場し、最終的に残ったのが後房型である。有水晶体眼に挿入する眼内レンズも同様のデザインで開発されたが、水晶体を温存した有水晶体の状態で挿入するため、水晶体への影響、すなわち白内障の併発が懸念された。その水晶体に最も近い位置に挿入する後房型の ICL であるが、清水先生が巻頭言で述べられているように、レンズの中央に貫通孔を設けるといふ奇想天外なアイデアで、術後の房水循環不全による白内障の軽減を実現させた。そして、もう 1 名の編集者である神谷和孝先生とともに、基礎実験に加え、臨床例を国内外の学会で報告かつ論文化し、ICL の安全性と有効性を世界中の眼科医に納得させるまでに至った。

このように、ICL を最も知りつくしていると言っても過言ではない編集者のもと、臨床経験豊富な著者が加わって完成された本書は、ICL について学びたい初心者から熟練者にとって、他に類のない至れり尽くせりの内容となっている。実際に挿入を始めたい場合に必要な講習会の受け方から認定手術のチェックポイントが詳しく説明され、術前検査と適応判断は、読者があたかも著者と一緒に検査結果をみながら適応を決め、度数決定まで進むような流れになっている。

ICL 手術で重要なサイズ決定は、最近の論文で注目されている AI を用いた方法まで紹介され、すでに ICL 手術を行っている眼科医も知識のアップデートができる。手術手技は、ウェブ動画で ID とパスワードを入力することで、プログラムから選択可能となっている。実際に動画を見せいただき、とても洗練された手術であることはもちろん、画像のセンタリングからピント合わせまで、教育用画像として細かな気配りがなされたものである。また、症例を重ねれば起こりうる合併症への対応、応用編としてのピギーバック法まで含まれていて、どのレベルの眼科医にとっても、申し分のない内容となっている。

最後に、このような 1 つの手技に関して複数の著者で執筆された本は、各著者の章で内容が重複していたり、知りたい情報が書かれている章を探すのに時間を要したりすることがある。本書は、最初から最後まで、あたかも 1 名の著者がまとめたような読みやすさと、特定の情報を見つけやすい構成になっている。海外でも ICL に関する多くの著書が出版されているなか、本書のように基礎から実技、応用まで非常に読みやすく、またコンパクトにまとめた本は筆者の知る限り出版されていない。海外の眼科医が本書の特徴を知ったらぜひ英語版を希望することは間違いない、非常に有用な本である。本書は、ICL 手術をする眼科医のみならず、関係する眼科スタッフ、また ICL 希望症例や術後症例の診療をなさる眼科医にぜひ熟読いただきたい。

東京歯科大水道橋病院特任教授・眼科
ピッセン 宮島 弘子B5・頁 252 2022 年 10 月
定価：19,800 円（本体 18,000 円＋税 10%）
[ISBN978-4-260-05056-2] 医学書院刊